

本資料内の数字は答申案の目次に対応 1は「水管理の歴史的変遷」であり割愛

- 治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者が協働して取組を深化させるとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図り、一体的に取り組むことで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。

2
背景・課題

気候変動等の影響

- ・既存施設を最大限かつ柔軟有効活用する方策の検討が必要
- ・水インフラの老朽化などによる水供給リスクへの対応が出来ていない
- ・危機時に備え具体的な水融通の事前検討が利水関係者間で不十分
- ・ハイブリッドダムを取組は試行段階であり、制度的整理が課題
- ・河川生態系の構成要素(水量、水質、水温等)に影響のある流量変動について、技術的知見や計画手法が明確でない

社会構造の変化・地方創生

- ・水辺空間の価値の向上・流域連携をさらなる推進
- ・実施してきた地域振興施設の維持や担い手の確保が出来ていない
- ・地域の水のニーズに柔軟な対応が出来ていない
- ・施設管理等の熟練技術者の減少、技術力の低下 等への懸念
- ・DXによる省人化、現場負担の最小化のさらなる推進

新たな技術の進展

- ・水利用に関する各種データのリアルタイムで流域関係者に共有できていない
- ・長時間先の予測技術の実装のさらなる促進が必要

3.流域総合水管理が目指す方向性

「水でつながる流域の恵みの最大化」、「流域の個性を再発見」、「For Allの流域総合水管理」、「Water for All-WA(和)」、「みずから守る地域の恵み」等

水災害による被害の最小化

流域全体、あらゆる関係者で、
「氾濫を減らす」「被害対象を減らす」
「早く復旧させる」

水の恵みの最大化

流域全体、あらゆる関係者で、
「安定的に水を供給する」「貴重な水資源を有効活用する」「国産でクリーンな電力を増やす」

水でつながる豊かな環境の最大化

流域全体、あらゆる関係者で、
「自然環境を守る・創る」「人も自然もつなぐ」
「豊かな水環境を創る」

4
具体的な取組内容

(2)流域の課題や多様なニーズ等の共有

地域・流域の個性に応じて、あらゆる関係者が情報共有、意見交換、課題解決するとともに、地域の将来構想についても議論がなされる仕組みを構築

(3)流域の関係者間の流域内のデータ共有・公開

(4)気候変動や水需要の変化等を踏まえた流域総合水管理の取組

- 1)治水機能の増強や貴重な水資源の有効活用等のための「既存施設の高度運用等」
ダムの運用の高度化等による水力発電の増強、複数ダムの統合運用・容量再編、水利権未取得のダム使用権等の活用、水利権の転用等による水資源の有効活用、融雪出水時の豊水等の活用 など
- 2)持続可能な水管理のための「施設整備、施設再編」
ダム管理における持続可能で効率的なアセットマネジメント、上下水道一体での強靱化・省エネ化の推進 など
- 3)危機時の迅速・円滑な水管理のための「備えの強化」
災害・事故等の不測の事態に対応する事前検討、流域の基幹施設・水路網等の情報共有 など
- 4)水でつながる「流域環境」の空間的・時間的連続性を高める取組強化
流量変動や土砂動態の管理等、フラッシュ放流・ダムの運用の拡充、河川内外の連続性の確保、下水処理水の活用、水辺の魅力や価値の向上、多様な主体・上下流の交流・連携参画 など

(5)流域の関係者が水管理の調整等を行う仕組みの構築

- ・「流域治水」「水利用」「流域環境」の一体的な取組を進める中で「相乗効果」の発現の検討、生じうる「利益相反」を全体最適に繋げるための調整を行う仕組み
- ・流域のあらゆる関係者が集う仕組み
- ・調整役がいる仕組み

(1)
全体像

(6)高度な水管理を現場で実践するための技術開発・体制構築等

(7)流域総合水管理に関する情報発信・海外展開等